

牛久：学校周辺に見る自然

第6号 牛久二小

2017年4月30日発行

＜ 春の校庭で生きもの観察 ～①花に来る虫たち ＞

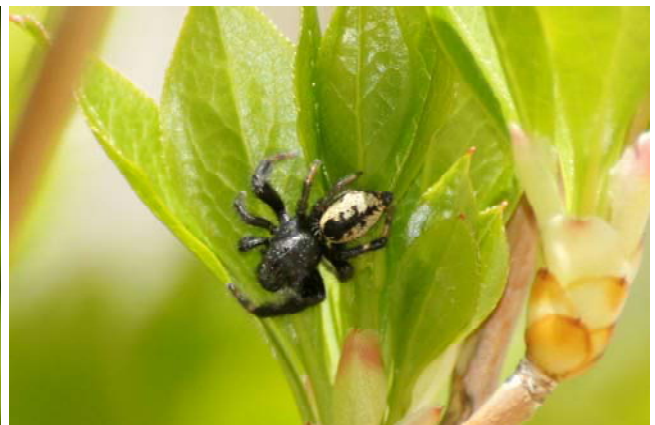
皆さん、こんにちは。4/19、牛久二小4年生の皆さんと、校庭の生きもの観察をしました。今回はその中から、花とそこに来た生きものたちを紹介（しょうかい）します。向台小での第1号も参考（さんこう）にしてください。



まずは、ドウダンツツジ。名前の通りツツジ科の仲間ですが、よく見かけるツツジの花とはずいぶん違って見えますね。手で花をおおって鼻を近づけると、ほのかに甘い香りがしました。もっと花数が増えてくると、そんなことしなくても甘いにおい（におい）が漂（ただよ）ってきます。その匂い（におい）にさそわれて、ミツバチなどが蜜（みつ）を吸（す）いに集ま（あ）ってきます。

白く小さな釣鐘（つりがね）のような花（はな）を咲（さ）かせるドウダンツツジ。

この日は、ニッポンヒゲナガハナバチのめすが来て、花から花へと蜜（みつ）を吸（す）ってまわっていました。強い足でしっかりとぶら下がり、器用（きよう）に蜜（みつ）を吸（す）っていきます。体（た）じゅう、花粉（かふん）だらけ。花（はな）はハチ（あ）に蜜（みつ）を与えるかわりに、花粉（かふん）を運（はこ）んでもらうのです。モンシロチョウもやってきましたが、うまくぶら下がれないのか、しばらくとまっていたましたが、そのまま去（い）って行（い）きました。そして、そのかげで、ネコハエトリというクモのおすがえものを待ちぶせていました。花（はな）に来（き）る虫（むし）たちをねら（ね）っているのです。咲（さ）いている花（はな）を見（み）つけるだけで、そこ（そこ）に来（き）るい（い）ろいろな虫（むし）たち（たち）も見（み）つけることができ（でき）ますね。



ドウダンツツジの蜜（みつ）を吸（す）うニッポンヒゲナガハナバチのめす（上2枚）と、花（はな）を訪（おとず）れたが蜜（みつ）を吸（す）えず（さ）に去（い）って行（い）ったモンシロチョウ（左下）、えものを待ちぶせるネコハエトリのおす（右下）。



オオイヌノフグリ（左）と、そのみつや花粉^{かふん}をなめるミナミヒメヒラタアブ（右）。

続いて、オオイヌノフグリ。この小さな花にも、ミツバチやハナアブ、チョウなどがやって来ます。この日はセイヨウミツバチやヒラタアブ^{なかも}の仲間が数種類来て、蜜^{みつ}や花粉^{かふん}を食べていました。



最後に、セイヨウタンポポ。この花には、いろいろな種類のハチやチョウのがやって来ます。この日は体が大きく長い腹部^{ふくぶ}が目だつヒメハラナガツチバチや、小さくて金属^{きんぞく}光沢^{こうたく}が目だつアカガネコハナバチ、モンシロチョウやベニシジミをよく見かけました。さらに、ギリギリスの仲間^{なかも}で親^{にくしよく}は肉食^{にくしよく}のヤブキリの幼虫^{ようちゆう}も花粉^{かふん}を食べていました。

← ヨーロッパからきた、セイヨウタンポポ。



セイヨウタンポポの蜜^{みつ}を吸^すうヒメハラナガツチバチ（左上）と、アカガネコハナバチ（右上）。ベニシジミ（左下）と、花粉^{かふん}を食べるヤブキリの幼虫^{ようちゆう}（右下）。

【理科支援員：宮内】